

別紙 1

2012年1月26日 読売新聞

福島県は25日、福島第一原発事故を受け、18歳以下の県民に行っている甲状腺検査のうち、原発周辺の住民を対象に先行実施した検査の結果を明らかにした。

分析を終えた約3800人に原発事故の影響とみられる異常は見られなかった。甲状腺に小さなしこりや「^{のうほう}嚢胞」と呼ばれる袋状のできものがあった26人については、念のため2次検査を受けるよう通知している。いずれも良性とみられ、事故以前からあった可能性が高いとしている。

検査結果は、県が同日に開いた県民健康管理調査の検討委員会で報告した。

甲状腺検査は、県民の放射線被^{ひばく}曝量などを調べる健康管理調査の一環。チェルノブイリ原発事故後に小児の甲状腺がんの増加が認められたため、18歳以下の約36万人を対象に昨年10月に始めた。

先行検査は、警戒区域と計画的避難区域に指定されている南相馬市、川俣町、浪江町、飯館村の4市町村の1万4442人を対象に行い、このうち県立医科大（福島市）で検査した3町村の3765人分を分析した。

しこりや嚢胞がなかった人が2622人（69・6％）、5ミリ以下のしこりか20ミリ以下の嚢胞があった人が1117人（29・7％）で、いずれも安全で2次検査の必要はないとした。5・1ミリ以上のしこりや20・1ミリ以上の嚢胞があった人は26人（0・7％）。直ちに2次検査を受ける必要のあるケースはなかった。

チェルノブイリ原発事故では、事故5年後頃から甲状腺がんになる子供が増えた。検査を行った鈴木真一・県立医科大教授は記者会見で、「甲状腺の腫瘍はゆっくり進行するので、今後も慎重に診ていく必要があるが、しこりは良性と思われ、安心している」と述べた。

福島県立医科大学で実施した甲状腺検査の結果について

検査実施総数（医科大学実施分）		3,765人	
判定結果	判定内容	人数（人）	割合（%）
A判定	(A1) 結節や嚢胞を認めなかったもの	2,622人	69.6%
	(A2) 5.0mm以下の結節や20.0mm以下の嚢胞を認めたもの	1,117人	29.7%
B判定	5.1mm以上の結節や20.1mm以上の嚢胞を認めたもの	26人	0.7%
C判定	甲状腺の状態等から判断して、直ちに二次検査を要するもの	0人	0%
〔判定結果の説明〕			
<ul style="list-style-type: none"> ・ A1、A2判定は次回（平成26年度以降）の検査まで経過観察 ・ B、C判定は二次検査（二次検査対象者に対しては、二次検査日時、場所を改めて通知して実施） 			
※ 結節、嚢胞両方の所見に該当しているケースも存在			
（参考）			
判定結果		人数（人）	割合（%）
結節を認めたもの	5.1mm以上	26人	0.7%
	5.0mm以下	56人	1.5%
嚢胞を認めたもの	20.1mm以上	0人	0.0%
	20.0mm以下	1,086人	28.8%
計		82人	(2.2%)
		1,086人	(28.8%)